



縄文時代 遺構検出と遺物出土状況



縄文時代 竪穴建物



縄文時代 土器出土状況



調査区全景
古代(下)・中世(上)水田



古代 水田



古代 水田調査風景



古代 溝(用水路)



古代 須恵器杯出土状況

佐渡金銀山や各地の水田跡の調査の進展に期待を寄せる橋本博文・新潟大学教授 | 新潟市中央区の同大旭町学術資料展示館

橋本博文・新潟大教授
水田発掘 進展に期待

新潟日報 2010(平成22)12月26日(日)

5mで、そのうち路面幅は3・7〜4・3m。側溝は方が幅2・6〜3・2m、深さ80〜90cm、もう一方が幅1・5〜1・9m、深さ50〜60cm。低地で排水をよくするため、側溝となる両端を深く掘りながら土を盛り、道を通ったとみられる。

同事業団によると、当時の道としては幅が広く、側溝から出土した珠洲焼などから15世紀の室町時代には利用されていた道と考えられる。さらに1597年に作成された「越後国城郡絵図」などから「松之山街」にも注目している。

青銅器は北九州か近畿で作られた可能性が高く、県内の政治的な集団が北越の東部と交流関係があったために、県内に入ったとみられる。

ことし、最も注目したのは鶴子銀山遺跡(佐渡市)。相川の金銀山に先行する銀山の拠点だったことを裏付ける製錬関連の遺構や、九州産の高級な磁器などが見つかった。調査は佐渡全体に広がる。こうした調査は佐渡全体の歴史を充実させることにつながる。

佐渡金銀山の世間遺産本登録に向け調査元年になった年とも言える。

山元遺跡(村上市)から出土された「筒形銅製品」にも注目している。

青銅器は北九州か近畿で作られた可能性が高く、県内の政治的な集団が北越の東部と交流関係があったために、県内に入ったとみられる。

ことし、最も注目したのは鶴子銀山遺跡(佐渡市)。相川の金銀山に先行する銀山の拠点だったことを裏付ける製錬関連の遺構や、九州産の高級な磁器などが見つかった。調査は佐渡全体に広がる。こうした調査は佐渡全体の歴史を充実させることにつながる。

中世の人骨出土例が全国的にも少ない中、宮花町遺跡(糸魚川市)の人骨が、当時の日本人の特徴や食性が分かる。昭和30年代に近くで見つかった中世の人骨が新潟大に保存されている。

これまで水田を発掘、確認するのは技術的に難しかった。しかし、これは上道下西遺跡(三条市)などで古代や中世の水田跡を確認できた。水田を造る当時の技術も分かっていた。今後は各地で意識的に水田があるか調査を進める必要がある。水田の発掘方法によって時期になる年になった。